

## 令和2年度 県立社高等学校 学校評価

### 教育目標

生きがいある生涯のために、生きる力と学ぶ力を身につけよう。

- 1 自立的に生きる力と生涯学び通す意欲と姿勢を培う。
- 2 規律と責任を重んじ、自立と協調の精神を養う。
- 3 思いやりや寛容の心と人権尊重の精神を養う。
- 4 豊かな心と逞しい身体を養う。

### 教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、魅力ある学校づくり、地域から信頼される学校づくり、安全・安心な学校づくりを推進する。
- 2 本校の特色を生かし、基礎・基本の確実な定着を図り、個性や創造性を伸ばすとともに、豊かな感性と自立して未来を切り拓く力を養う。
- 3 命と人権を尊重し、国際的な視野で多様な文化や価値観の理解と尊重する態度を養い、高い志をもって国際社会に貢献する力を培う。
- 4 厳しいなかに温かさのあるふれあいを通して、生徒理解に基づく生活指導を心がけ、生徒一人ひとりの社会性と主体的な進路選択能力を育成する。

### 各学科のミッション

(体育科) 競技力の向上を図り、将来の体育指導者としてグローバルに活躍する人材の育成  
 (生活科学科) 食と栄養のスペシャリストとしてグローバルに活躍する人材の育成  
 (普通科) 成りたい自分になるために希望進路の実現を図り、グローバルに活躍する人材の育成  
 特に看護医療類型については、看護医療・スポーツ医療分野のエキスパートとして活躍する人材を育成する

### 令和2年度努力目標・実践目標について

令和2年度の努力目標は、

- ①キャリア教育(進路指導)の充実
- ②生徒学力の向上
- ③広報活動の充実と地域との連携推進
- ④部活動・生徒会活動の充実
- ⑤心のサポートシステムの構築

の5つの視点から整理した昨年の取組を更に充実させる方向で見直しを図った。

それぞれの年度努力目標ごとに、現状とありたい姿について全職員で話し合い、共有化を図る。

実践目標については、令和元年度の成果と課題をふまえて、担当部署ごとに整理する。

また、PDCAサイクルで学校改善が進むようにするために、スケジュール指標・活動指標・成果指標など、実践目標に応じて数値化できるものはできるだけ数値化する等、きめ細かく評価指標を設定する。

### 取りまとめ担当部署

- ①キャリア教育の充実→進路指導部
- ②学力の向上→教務部
- ③広報活動の充実→総務管理部
- ④部活動・生徒会活動の充実  
→生徒指導部
- ⑤心のサポートシステムの構築  
→保健部・人権担当  
心のサポート担当

### ◆評価点について

A(5点)B(4点)C(2点)D(1点)としたときの  
 の平均値

### ◆総合評価について

平均 4.1 以上…A 3.6 以上…B  
 平均 3.1 以上…C 2.6 以上…D  
 平均 2.5 以下…E

努力目標 I		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題	
<b>キャリア教育の充実</b> <b>(進路指導)</b>		<b>具</b> <b>体</b> <b>的</b> <b>な</b> <b>取</b> <b>組</b>	<b>(1) より充実した進路指導体制の構築</b> ・ 3年間を見ずえた進路指導のあり方(進路シラバス)をまとめる。 ・ 学年と進路指導部の連携を密にし、情報交換を緊密にする。 ・ 国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる進路指導体制(面接・小論文指導)の充実をはかる。	<b>学年進路</b>  <b>進路指導部</b>	・ 部会を学期に1回は実施し、学年進路行事や進路についての情報交換を行い、進路から有意義な情報を提示しているか。 ・ 各学年で早期に平常及び長期休業中の補習や学年の進路行事を計画し、職員会議に提示しているか。 ・ 3年生対象の面接対策、小論文対策を教職員が協力して実施しているか。また、そのスキルを向上させるための情報提供ができているか。 ・ 生徒が利用しやすいように進路指導室の環境を整えているか。	<b>4.0</b> <b>B</b>	<b>(成果)</b> ・ 部主任の先生方にお世話になり、指定校や国公立大学推薦入試、就職希望者の最終面接をきちんと行うことができた。また多くの先生方に面接・小論文指導をしていただくことができた。  <b>(次年度に向けて)</b> ・ 業務が特定の職員に集中するので、特に推薦にかかる指導については業務が分散するような体制作りを検討し、実施する。
			<b>(2) 教職員の進路指導力の向上</b> 進路状況(就職・進学)の整理と分析を行い、共通理解をしながら生徒の指導にあたる。 最新の進路情報の入手と進路指導力の向上を目指した職員研修会を充実させる。	<b>進路指導部</b>	・ 3月末に「進路だより」を発行しているか。 ・ 「進路の手引」の内容をより充実させ、5月に発行しているか。 ・ 大学入試制度が変わる来年度入試に係る職員研修会を開催したか。	<b>3.9</b> <b>B</b>	<b>(成果)</b> ・ 3月末および4月上旬に「進路だより」を発行した。 ・ 臨時休校のため、「進路の手引」の発行が6月にずれ込んだ。  <b>(次年度に向けて)</b> ・ 大学入試改革や就職求人票改定に伴う情報など進路指導にかかる教員間の共通理解を図る。 ・ コロナ禍で研修ができなかった推薦書、志望理由書、小論文の指導を各担任ができるように研修を実施する。 ・ 年度初めに社高校3年間を見通した職員研修を実施し、進路指導に関する共通認識を行う。
			<b>(3) 学びの原動力・推進力となる体験学習の充実</b> 高大連携を推進し、計画的に大学見学会や分野別模擬授業などに取り組む。また、産学連携を推進し、インターンシップ、職場訪問など体験学習の機会、および事前事後指導を充実させる。 体育科や生活科学科については、トップアスリートやスペシャリストから直接指導を受ける機会を充実させる。	<b>進路指導部</b>  <b>学年</b>  <b>生活科学科</b>  <b>体育科</b>	・ 高大連携について、大学見学会や進路ガイダンスで模擬授業等の体験ができているか。 ・ 就職希望者のインターンシップを就職指導の一環として有効に実施しているか。 ・ 生活科学科、看護医療類型において、その専門性を生かしたインターンシップを実施しているか。 ・ 専門学科では、「ひょうごの達人」招聘事業やインスパイア・ハイスクール事業などを活用して、本物に触れる機会を充実させているか。	<b>4.1</b> <b>A</b>	<b>(成果)</b> ・ 理科では実験を多く取り入れた授業を実施することができた。  <b>(次年度に向けて)</b> ・ コロナ禍で実施できなかった看護医療類型のインターンシップの実施。 ・ 大学見学や進路ガイダンス等の充実を図る。
<b>(ありがたい姿)</b> 様々な進路の中から、自分に最も適した進路を能動的に模索し、将来どのような形で社会と関わり貢献できるかを考えることのできる生徒を育成する。また、その実現のために、粘り強く最後まで学習を続けることができる生徒および互いに高めあい励まし合うことができる生徒集団を育成する。	<b>(現状)</b> インターンシップや体験学習の充実など、キャリア意識の醸成に寄与する種々の取組みが実施されている。 3年間を見通した進路指導のあり方をもとに一般選抜まで頑張る雰囲気を持続させ、進路に対して早期の意識づけと基礎力をつけるために1年時よりの学習への取組を徹底させることが課題である。						

努力目標Ⅱ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題	
<b>生徒学力の向上</b>		<b>(1) 教職員の教科指導力の向上</b> 生徒の興味と意欲を高める 「わかる授業」作りのために、計画的に公開授業や研究授業に取り組む。 定期的に生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。 高大接続改革をふまえて、生徒の主体的・協働的な学びを授業に取り入れる。	<b>学力向上推進委員会</b>  <b>教務部</b>  <b>各教科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で年間1回は授業研究会を実施しているか。</li> <li>各教員が、年間1回は公開授業を実施しているか。</li> <li>各教員が、年間1回は生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に活かしているか。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を実施したか。</li> <li>全科目シラバスを作成する。</li> </ul>	<b>4.0 B</b>	<b>(成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科では実験を多く取り入れた授業を実施することができた。</li> </ul> <b>(次年度に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業や授業研究会が十分行えなかったため今後は教科内研修を定期的に行う。</li> </ul>	
		<b>(2) 学習習慣の確立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律を確立し、生徒が真摯な態度で、授業に取り組むようにさせる。</li> <li>ポートフォリオの活用について研修を重ねていく。</li> <li>生徒の学習活動の改善に向けて、自学自習の能力を高めるための指導法について考えていく。</li> </ul>	<b>学力向上推進委員会</b>  <b>教務部</b>  <b>各学年</b> <b>進路指導部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒が、学習の記録を作成し、ポートフォリオを活用しているか。</li> <li>1日の家庭学習時間について、2時間以上の割合が50%以上。</li> <li>定期的な補習、計画的な週末課題が充実し定着しているか。</li> <li>1・2学期末に生活実態及び学習状況調査を実施し、分析結果を指導に役立てているか。</li> </ul>		<b>3.0 D</b>	<b>(成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路を見据えた話をしつつ学習習慣の確立につなげることができた。</li> </ul> <b>(次年度に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習習慣が確立できていない生徒が少なくないため学習習慣づくりの方策を検討し、実行する。</li> </ul>
		<b>(3) 模擬試験や資格試験の活用</b> 定期的に模擬試験等を受験させ進路意識の向上を図る。模擬試験等の受験後の振り返り（解き直し・復習）を習慣づけ、苦手分野の克服に努めさせる。 英語検定や漢字検定、情報処理検定などの検定試験を校内で実施し、資格の取得を奨励する。	<b>学力向上推進委員会</b>  <b>進路指導部</b>  <b>各学年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に校内模試を実施し、受験結果を分析することによって生徒の学力を学年内や教科で共有しているか。</li> <li>利用の仕方の確認や振り返りの習慣づけなど模擬試験を学力及び進路意識の向上の方策として活用できているか。</li> <li>英検または漢検で準2級以上の資格取得者が、1年30名以上、2年80名以上、3年100名以上。</li> </ul>			<b>4.7 A</b>

**(ありがたい姿)**  
 目標とする進路実現に必要な基礎・基本的な学力を身につけるために、積極的・意欲的に学習に取り組むことができる生徒を育てる。  
 さらに、学力を伸ばさせるため、放課後や長期休業中の補習に積極的に参加し、計画的・主体的に学習できる生徒を育てる。

**(現状)**  
 平日の平均家庭学習時間は、1・2年生の約8割が2時間未満という現状、基礎・基本的な学力が身につけている生徒が少ない。  
 各学年で、週末課題を課したり、放課後に学力の伸ばを図るための希望者補習に取り組んだり、長期休業中には普通科生徒には普通科生徒に対する全員補習や希望者補習を実施している。

努力目標Ⅲ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
<b>広報活動の充実と 地域との連携推進</b>		<b>(1) 各種通信及びホームページの充実</b> 各種通信は少なくとも毎月1回発行し、ホームページに掲載する。また、ホームページの更新回数を増やすとともに内容の刷新を図る。	<b>各学年</b>  <b>各学科</b>  <b>総務管理部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各通信は毎月1回以上発行しているか。</li> <li>ホームページは現状に合わせた情報をアップデートしているか。</li> <li>行事の記録なども含め、週に数回は新しい情報を発信出来ているか。</li> </ul>	<b>3.9 B</b>	<b>(成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>H Pや学年通信、各種通信で学校の情報を発信できた。</li> <li>「校長室から」などを通して、学校の様子を発信できた。</li> </ul> <b>(次年度に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信の発行頻度の増加し、新情報の提供を心がける。</li> </ul>
		<b>(2) オープン・ハイスクールの効果的な運営</b> 毎回、異なる視点で開催し、本校のあらゆる活動を紹介できるように、全校を挙げて協同で運営する。生徒を前面に押し出した企画・内容で本校の育てたい生徒像を発信する機会とする。	<b>生活科学科</b>  <b>体育科</b>  <b>総務管理部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープン・ハイスクールごとにプログラム工夫をおこなっているか。</li> <li>生徒を前面に押し出した運営になっているか。</li> <li>学校紹介ビデオやプレゼンの内容や構成はなるべく新鮮な素材を用いたものになっているか。</li> </ul>		<b>4.3 A</b>
		<b>(3) オープン・スクールの機会と内容の充実</b> 授業公開や学校行事、合同発表会など、地域の方をはじめ大学関係者、企業等、多くの学校関係者に教育成果を見ていただく環境を整える。	<b>総務管理部</b>  <b>教務部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開週間に参観している保護者・地域等の方々が増えているか。</li> <li>体育科、生活科学科、看護医療類型において実施する課題研究発表会をオープン・スクールとして設定しているか。</li> <li>3学科合同発表会を実施するための環境を整えるために、課題等が議論されているか。</li> </ul>	<b>4.3 A</b>	
		<b>(4) 地域との連携推進</b> 地域貢献事業や、ボランティア活動などを通じて、地域との連携を推進し、本校の特色ある各科や部の、活動の様子を、さまざまな形で発信していく。	<b>総務管理部</b>  <b>生活科学科</b>  <b>体育科</b>  <b>生徒指導部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代間交流や小中高連携事業などをはじめ、地域連携が積極的に行われているか。</li> <li>ボランティア活動を通じて、さまざまな方々との交流が行われているか。</li> <li>防災訓練や校外清掃などを通じて、各地域団体との連携がなされているか。</li> </ul>		<b>4.3 A</b>

努力目標Ⅳ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
<b>部活動・生徒会活動の充実</b>		<b>(1) 規律ある部活動運営と入部率のアップ</b> 生活三原則（時を守り・場を清め・礼を正す）を徹底し、規律ある部活動運営を心がける。また、生徒会が主体となり部活動間の交流を深めるなど、生徒の活動を支援することで、多くの発表の場を無くした部活動生徒の心のケアと、入部率のアップを図る。	<b>学年生徒指導</b>  <b>生徒指導部</b>	・各部活動において、制限のある中、工夫を凝らした部活動紹介ができているか。 ・部活動活動実態調査の充実を図り、活性化のためのノ一部活動デーとなるよう推進しているか。 ・異例の事態の中、部の枠を越えて、全部活動が一致団結して、充実した学校生活になるよう取り組んでいるか。 ・部活動入部率が85%以上になっているか。	<b>4.3</b> <b>A</b>	<b>(成果)</b> ・部活動の入部率が高く、また、感染拡大防止の観点から、各部ごとにノ一部活デーを計画的に設置することができた。  <b>(次年度に向けて)</b> ・感染拡大防止の観点から、部室とトレーニングルームの活用時間等を見直したい。 ・校内放送を活用し、各部活動の活動報告を行うことで「チーム社」の精神の涵養を図りたい。
		<b>(2) 生徒会活動・ボランティア活動の充実</b> 文化祭・球技大会、体育大会などが中止・縮小される中、代替行事等を生徒が主体的に企画・運営できるように支援することで、これまで以上に生徒会を中止とした学校に発展させていく。 また、各種ボランティア活動が可能となれば、積極的に取り組めるように環境を整える。	<b>生徒指導部</b> <b>(生徒会係)</b>	・新型コロナウイルス感染防止という異例の事態の中、生徒会行事の計画案を実施可能な範囲で充実させ、臨機応変に取り組ませているか。 ・球技大会の企画・運営は全て生徒会が担当し、各競技における補助も各競技専門の運動部員がしているか。 ・異例の事態の中、地域清掃活動等のボランティア活動が実施可能な場合、参加した生徒が全校生徒の60%以上になっているか。		<b>4.1</b> <b>A</b>
		<b>(3) 委員会活動の活性化</b> 図書委員会を中心とした読書の推進活動、美化委員会を中心とした校内外の環境美化活動、風紀委員会を中心とした挨拶運動、保健委員会を中心とした健康で安全な生活を送るための啓発活動など、各種委員会活動を活性化させ、活気ある学校づくりに努める。	<b>関係部署</b>  <b>生徒会</b>	・各種委員会を必要に応じて実施しているか。 ・各委員会に年間スケジュールを提示させ活動計画案を提出させているか。 ・朝読書など、読書推進活動が行われているか。 ・年間で25回以上の挨拶運動が行われているか。 ・美化活動が実施されているか。 ・新型コロナウイルス対策等、保健、安全面での啓発活動が実施できたか。	<b>3.2</b> <b>C</b>	<b>(成果)</b> ・体育委員会、選挙管理委員会、部活動紹介・体育大会前の部活動部長会議については計画的に実施することができた。  <b>(次年度に向けて)</b> ・感染拡大防止を心掛けた上で、朝の挨拶運動を実施させたい。 ・各行事が縮小・中止される中、各委員会が活動できる場を増やしたい。

**(ありがたい姿)**  
各種活動において自ら計画、活動ができるようにしたい。またそれらの指示が生徒主導でありたい。  
具体的には、部活動の入部率が上がり、生徒会行事や各種委員会の活動が活発に行われ、生徒が生き生きとした活気に満ちあふれた学校でありたい。

**(現状)**  
ほとんどの生徒が時と場所に応じた行動・態度が取れてはいるが、自主的な行動や主体性を持った活動というところまでは達していない。  
生徒会行事、委員会活動やボランティア活動および報告会など活性化した取り組みが見られるようになった。  
部活動の入部率は高くなったが、一方で退部者が増えている。

努力目標Ⅴ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題	
<b>心のサポートシステムの構築</b>		<b>(1) 教職員の専門性の向上と協働体制の構築</b> 生徒の内面理解に基づき、自己有用感を高めて、やる気を起こさせる指導を推進するため、カウンセリングマインド研修会等、教職員の専門性を高める研修会を計画的に実施する。 また、今年度は心のサポートシステム研究開発指定校（テーマ：SNSトラブル未然防止）1年目となり、生徒主体の研修会等を複数回設定し、よりよい人間関係作りを推し進めていく。	<b>コーディネーター</b>  <b>保健部</b>  <b>心のサポート担当者会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談等に活用できる研修内容を計画し、教職員全体の資質・指導力の向上を図っているか。</li> <li>・全職員が、生徒情報を共有しているか。</li> <li>・特別支援教育委員会を中心にして、特別な支援を要する生徒に対して、組織的に指導・支援にあたれているか。</li> <li>・SNSに端を発するトラブルの未然防止について、生徒主体の研修会が実施できているか。</li> </ul>	<b>4.1 A</b>	<b>(成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社高生「スマートフォン利用ルールと心構え」の作成に着手できている。</li> <li>・加東市と提携し、望ましいスマートフォンの活用方法のモデルとして、地域の名所や風景写真をSNS上で公募し、市の魅力を結集したモザイクアートを作成することができた。</li> <li>・1年生を対象とした「SNSトラブル未然講習会」を実施することができた。</li> </ul> <b>(次年度に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における各研修や講演会の充実を図りたい。</li> </ul>	
		<b>(2) 中学校や保護者と連携した生徒情報の収集及び共有化</b> 入学までに中学校・保護者の協力を得て本校所定の様式である「パーソナルファイル」を作成する。また、日常的にパーソナルファイルを更新するとともに情報の共有化を進め、生徒の指導・支援体制を整える。	<b>各学年</b>  <b>体育科</b>  <b>心のサポート担当者会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の出身校を中心とした中学校訪問など、生徒情報の収集に努めているか。</li> <li>・定期的な三者面談等、保護者との連携ができているか。</li> <li>・拡大学年会議を学期ごとに開催し、生徒の現状を常に共有化しているか。</li> <li>・パーソナルファイルの共有化によりきめ細かい生徒支援が行えているか。</li> </ul>		<b>4.0 B</b>	<b>(成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の入学時には、各中学校からの生徒情報を入手することができた。また、特別な事情のある生徒情報の共有を図ることができた。（第1学年）</li> </ul> <b>(次年度に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から研究内容の変更（いじめ未然防止→スマートフォン社会における望ましい人間関係を築く力を育む実践研究へ）に伴い、従来のパーソナルファイルの位置づけ・使い方・追記要領・保管方法等の改善を図りたい。</li> </ul>
		<b>(3) より良い人間関係、心を支える相談体制と外部との連携</b> 人権HRや人権講演会等、人権感覚育成のための取組を充実させる。担任だけでなく、部活動顧問、教科担当など、生徒との個人面談の機会を充実させる。 また、いじめ未然防止についても全職員で取り組む。 「心の教育総合センター」との連携を視野に入れる。	<b>人権・国際理解教育担当者</b>  <b>特別支援教育委員会委員長</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権HRや講演会など、人権尊重の精神を育てる機会が充実しているか。</li> <li>・生徒との個人面談の機会が充実しているか。</li> <li>・特別に支援を要する生徒の指導について、全職員でかかわる体制が整っているか。</li> <li>・全職員でいじめ未然防止に取り組んでいるか。</li> <li>・「心の教育総合センター」と連携した相談体制を構築することができたか。</li> </ul>			<b>4.2 A</b>

**(ありがたい姿)**  
 教職員が専門性を向上させ、中学校や保護者、関係機関と連携協力しながら、組織的に個々の生徒の内面理解に基づき指導・支援にあたっている。  
 生徒に、人権尊重の精神や共生の心・態度が育ち、自己有用感とやる気を持って、充実した学校生活を送っている。

**(現状)**  
 本校に入学してよかった、学校生活が充実していると思う生徒、保護者は8割を超えている。反面、悩みを相談できる教職員がいるか、との問いかけに生徒、保護者の2割以上が「そうは思わない」と考えている。  
 パーソナルファイルの更新や共有についてはやや停滞気味である。